2008年の長禅寺三世堂御開帳　　2008年4月18日　曇天で風雨

八重桜が咲き乱れ、長禅寺境内は小雨に濡れた薄桃色の八重桜と若葉色に変わりつつあるソメイ吉野の散った花弁でお釈迦さまの祭りに相応しい、春爛漫の境内でした。

丸窓下の扁額に、観覚光音禅師の名が記されている

今回の開帳を最後に十一面観音は修復の為、姿を隠します

文暦元年(1234)将門の弟、將門の子孫と言われる、大鹿左衛門尉綾部時平が十一面観音堂として建立したと伝えられています。十一面観世音菩薩立像は、慶快家の安阿弥(あんあみ)作といわれている。

十一顔面と左腕が損傷して無い、仏像

三階の丸窓から光音堂前のぼたん桜が満開の様子です。

内側にガラス戸が着けられた

三階の弘法大師座像、四国三十三観音

三世堂の逸話には、ロマンチックな噺が残っています。

一つ、平將門と桔梗御前の出会い、正室のいる將門が、佐原の豪家の桔梗に出会った場所といわれる伝説。
長禅寺は、承平元年(931)に平親皇將門相馬小次郎(平將門)の勅願所として創建された云われる、その創建式典で桔梗に出会ったという伝説がありました、妾である桔梗御前の伝説は取手市内に残されています。

二つ、新聞小説や家庭小説で著名な小説家、菊池幽芳と染物屋の杉浦玉枝との、しばしの別れの舞台になりました
明治24年に二人は結婚し生涯を共に過ごしました。

三つ、高村光太郎の妻智恵子の看病をした姪の看護婦のはる子は宮崎仁十郎の息子である宮崎稔と結婚している
「利根川の美しさは　空間の美である」と光太郎は名言を残し、取手に在住していた小川芋銭の「景慕之碑」に筆を残していかれました。取手に一時在住の「智恵子抄」の高村光太郎。
尚、休憩所である「清涼亭」は小川芋銭による命名であります。

一階の板東三十三観音のご神体。

三階から長禅寺本堂の景色、八重桜が満開でした

三世堂内部の様子

二階の秩父観音霊場三十四ヶ所のご神体。

三階部分の丸窓と四国観音三十三仏像の一画。

仏像が祀られた堂内、御詠歌の版木は黒ずみ読みとれない。

2001 年撮影、第五番札所と「ぼたん桜」。現在の様子と若干違います。

写真は、**二階の丸窓から撮影した鰐口です。**

昭和 46 年３月に三世堂は、堂のゆがみにより改修修理が行われました、改修で大きく変化したのは、一階から三階迄の吹抜け、アトリュームが堂補強の為に梁を追加した為に無くなり、賽銭の回収の為にあった賽銭収集通路の廃止も含まれており、現在は各賽銭箱の下部に潜り込んで賽銭を回収しているようで、大変苦労しておられるようです。

十一面観音の姿を見納める機会に巡り会えて良かった、kumaken 記